5課

10月31日

偉大な教師としてのイエス

安息日午後 10月24日

暗唱聖句

「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました。（IIコリント4：6、新共同訳）

「やみの中から光が照りいでよ」と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。（IIコリント4：6、口語訳）

今週の聖句

ヘブライ1：1〜4、IIコリント4：1〜6、ヨハネ1：14、18、14：1〜14、フィリピ2：1〜11、IIコリント5：16〜21

今週のテーマ

ビリー・グラハムが、将軍とある野戦病院の兵士たちを訪問したときのことです。1人の兵士が「ずたずたにされ、布と金属の装置の上に、うつぶせに横たわっていました」。医者は兵士に聞こえない小さな声でグラハムに、「彼は二度と歩けないでしょう」とささやきました。するとその兵士は、将軍にお願いごとをしたのです。「閣下、……私はあなたのために戦いましたが、今まであなたを見たことがありません。あなたの顔を見せてください」と。そこで将軍は身をかがめ、その布と金属の装置の下に滑り込み、その兵士に顔を見せて話をしました。グラハムが見ていると、涙が兵士から将軍の頬に落ちたといいます。

イエスがお生まれになったとき、人類はずたずたにされ、血を流しながら横たわり、神にいやされるという幻を必要としていました。それはあたかも、「ああ、神よ、あなたのみ顔を見せてください」と人類が嘆願していたかのようです。地球にみ子を遣わされたとき、父なる神はご自分の顔を人間に見せるようにという使命を負わせて、偉大な教師を派遣されたのでした。それ以来、「イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光」（IIコリ4:6）を見るすばらしい特権が、私たちには与えられてきました。

偉大なるその教師が地上に向かって来られる姿を見るとき、私たちは彼から何を学ぶことができるでしょうか。

問１　ヘブライ人への手紙の冒頭で、記者である使徒は、イエスについてどんな最も重要な点を指摘していますか（ヘブ１：1〜4)。

新約聖書の記者たちは、一つの重要な考えを繰り返し強調しています――イエスが地上に来られたのは、父なる神を人類に示すためであったという考えです。かつて神の啓示は、預言者たちを通じて断片的にもたらされました。しかしイエスによって、最終的で完全な神の啓示がなされたのです。

また、人間となられたイエスは、「神の栄光の反映」（ヘブ１：3）でもありました。私たちは罪深い人間なので、神の栄光に近づくことができません。

イエスはまた、「神の本質の完全な現れ」（ヘブ１：3）でもありました。ここで用いられているギリシア語は、「カラクテール」という言葉で、印を蝋（ろう）に押しつけてできる跡や、硬貨に刻まれた肖像の意味で用いられます。そのようにイエスは、「〔神の〕本質の完全な刻銘」（同、詳訳聖書）であられたのです。

もし父なる神を知りたいと思うなら、私たちは、偉大な教師が彼について言われたことに注意深く耳を傾けなければなりません。そして、偉大な教師にも目を向けなければなりません。父はみ子の中に見られるからです。

問２　ヘブライ１：1〜4とⅡコリント４：1〜6を読み比べてください。Ⅱコリント４：1〜6において、イエスはどのような方ですか。私たちは彼から何を学びますか。

パウロとその共労者たちは、神について人々を教育するとき、イエスご自身が父なる神について教えられたその働きを再現しようとしました。「神の似姿」（Ⅱコリ４：4）であられるイエスは、父なる神についての知識を私たちにもたらしてくださいました。同様に、パウロは神の言葉をごまかしたり、ゆがめたりせず、真理をはっきりと示しました（同４：2)。

神は、創造の際に光を用いて闇を打ち払われたように、み子イエスを私たちに与え、ご自分についての誤った見方を打ち払い、ご自分についての真理を示されました。私たちが神について最も明快な知識を得られるのは、「イエス・キリストの御顔」（Ⅱコリ４：6）の中なのです。

ヨハネは、彼が書いた福音書の感動的な導入部で（ヨハ1：1～18)、イエスを永遠の「言（ことば）」と説明しています。それは大胆で、宇宙規模のものです。イエスは、この世界が生じる前から、実際には永遠の昔から、存在しておられました。イエスは「人間を照らす光」（同1：4）であり、この世界に来た言葉として、「すべての人を照らす」（同1：9）のです。

問3　ヨハネによれば、キリストが人間になられた結果、どうなりましたか（ヨハ1：14)。言として、彼はどのような光をもたらしてくださいましたか。そうするためのどのような資格を、彼は持っておられましたか（同1：18)。

「光であるキリストは世の暗黒が最も深い時においでになった。……ただ1つの希望が人類にあった。……神の知識が世に回復されるはずであった。

キリストは、この知識を回復するためにおいでになった。彼は、神を知っていると公言している人々が、神を誤り伝えているその偽りの教えをとりのぞくためにおいでになった。彼は、神の律法の性格を明らかにし、ご自身の品性の中に聖潔の美しさを表わすためにおいでになった」（『教育』73、75ページ)。

イエスが地上の生涯の中でなさったすべてのことには、ただ一つの目的がありました。「その目的とは、人間を高めるために、神を啓示すること」（『教育』83ページ）でした。

問4　イエスご自身が、「わたしを見た者は、父を見たのだ」（ヨハ14：9）と言っておられます。イエスがこう言われたのは、どのような状況においてでしたか。なぜこのようなことを言われたのですか（同14：1～14)。

フィリポの不注意な言葉を（ヨハ14：8)、私たちは批判したくなります。何年もイエスと親しく交わってきたのに、受肉の神髄をわかっていませんでした。イエスは父なる神のご品性を示すために来られたのです。現代の教師たちは、偉大な教師の教え子たちがへまをやらかした事実に少し安心できることでしょう！　しかし、フィリポの言葉が記録されたのは、批判する理由を私たちに与えるためではなく、たぶん私たち自身を吟味するためです。私たちはどれほど長い間イエスと歩んできましたか。そして、フィリポが理解していた以上に、どれくらいイエスを理解していますか。「わたしを見た者は、父を見た」のです。

問5　パウロがフィリピの信徒へ手紙を書いていたとき、このクリスチャン共同体について、彼の心にあった心配事は何ですか（フィリ2：1〜4、4：2、3）。

フィリピ2：1〜11は、聖書全巻の中でも最も深い箇所の一つです。そこには、キリストの先在、神性、受肉、人性、十字架の死の受容などが論じられ、天からカルバリーへとイエスが下られた長く険しい道が描かれています（フィリ2：5〜8）。また、父なる神が、万物の礼拝を受ける立場へイエスをいかに高く上げられたかも述べられています（同2：9〜11）。多くの驚くべき真実を学ぶことができます。

問6　フィリピ2：5〜11を、パウロはどのように書き始めていますか。パウロはイエスの人生における出来事を称賛していますが、その出来事の中で、彼がフィリピの信者たちに生活の中で反映させてほしいと期待していることは何だと思いますか。

パウロは、論争好きであったフィリピの信徒が、イエスと彼の受肉から学ぶことを望んでいます。もしイエスが人間の形を取り――「僕（しもべ）のかたちをとり、人間の姿になられ」（フィリ2：7、口語訳）――、十字架刑さえお受けになったのであれば、彼らは愛によって、どれほどもっと互いに従順であるべきでしょう。

私たちは、偉大なる教師イエスから学ぶべきことがたくさんあることに気づかされます。私たちは、イエスが地上の働きの中でお伝えになったメッセージから学べます。彼が起こした奇跡や、他者に対する彼の行動の仕方からも学べます。イエスの偉大なへりくだりに倣（なら）い、また天の栄光を飼い葉おけと進んで交換された彼の姿勢について深く考えることで（なんという教訓でしょう！）、私たちは他者との関わり方の模範を手に入れようとするかもしれません。

私たちは、ベツレヘムの飼い葉おけで、偉大なる教師から、異なる教訓を学ぶのです――神の偉大な教育と救済の働きは、自己称揚によってではなく、神の前にへりくだり、他者の僕となることによって成し遂げられるという教訓です。

現時点で、あなたはどのような状況に直面していますか。その状況の中で、あなたのへりくだりは、キリストを人々に示す効果的な機会になるでしょうか。

人間関係は頻繁に破綻（はたん）します。私たちの心は互いに遠ざかり、かつて親友だった人が、時間とともに、信頼できない人になったりします。しかし、そのような破綻した関係は、修復が可能です。

問７　和解は、キリストの受肉、偉大な教師としての彼の役割のいかに中心にありますか（Ⅱコリ５：16～21）。

パウロはⅡコリント5:16～21において、だれが和解をしているかについてはっきり述べています――父なる神が、ご自分と私たちとの破綻した関係を率先して修復してくださいました。そして神は、この和解の業を「キリストを通して」（Ⅱコリ5：18）なさいました。「神はキリストによって世を御自分と和解させ……られたのです」（同5：19）。

しかし、私たちは和解の喜びを単に味わう者になるだけではいけません。受肉によって、イエスは和解の働きに参加なさいました。そして私たちも、それに加わるように招かれています。神は、キリストを通して私たちをご自分と和解されました。そして今や、パウロのように私たちにも「和解のために奉仕する任務」（Ⅱコリ5：18）が与えられているのです。

コロサイ1：15～20も、キリストの受肉に関する偉大な新約聖書の聖句の一つです。この箇所はしばしば賛美と考えられており、前半部分（コロ1：15～17）は創造におけるキリストの役割について論じ、一方、後半部分（同1：18～20）は、キリストのあがないにおける役割に焦点を合わせています。創造主兼あがない主としてのキリストの役割を通して、神はすべてのものをご自分と和解させられます。神がキリストによって成し遂げられる和解の働きは、宇宙規模であり、「その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物」（同1：20）に影響を及ぼすのです。

私たちは、和解主としての偉大な教師の宇宙規模の働きに肩を並べることはできませんが、「和解のために奉仕する任務」（Ⅱコリ5：18）に参加するよう招かれています。イエスが、「わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました」（ヨハ17：18）と祈られたとき、そのみ心にあったのは、このことだったのでしょうか。

和解をもたらす神の働きを私たちが反映させることのできる実際的な方法には、どのようなものがありますか。どのような状況の中でなら、人々が互いに和解するのを、今すぐに手助けすることができるでしょうか。

彼らは、小さな町の外れで平均的な大きさの羊の群れを世話する普通の羊飼いの集団でした。ところが彼らは、衝撃的で、不思議で、世界を揺るがす知らせをもたらす天使たちの突然の出現を目撃する者になったのです。その出現に突き動かされて、彼らは、天使たちが告げた子どもを探し出しました。

問８　その羊飼いたちと一緒に立って、あなたが飼い葉おけをのぞき込んでいるところを想像してみてください。何が見えるでしょうか（ルカ２：8～20）。

私たちは、偉大な教師の最初の教え子（ヨセフ、マリア、羊飼い）たちにあこがれるにちがいありません。イエスがお生まれになった質素な状況は、受肉の奇跡をまったく伝えていません。この幼子になることで、神が人類とともにある者となられたのです。しかし、幻、夢、天使たちの助けを得て、偉大な教師のこれらの最初の生徒たちは、イエスの誕生の深層を見ることができました。羊飼いたちはこの幼子の正体を人々に伝えています。「この方こそ主メシアである」（ルカ２：11、さらに２：17を参照）と……。

問９　イエス誕生の知らせに、学者たちはどのような反応を示しましたか（マタ２：1～12）。

偉大な教師は、最初のたとえ話を語り、最初の奇跡を行われる前に、その本質のゆえに、私たちの礼拝を受けるにふさわしいお方です。のちに行われたイエスの教えの働きを十分理解するために、私たちは、この初期の生徒である学者たちの（偉大な教師に対する）礼拝に加わらなければなりません。私たちが称賛する教えをなさった方は、賢い教育者以上の方、人類とともに住むために来られた神なのです。キリスト教教育は、キリストを礼拝することに根差しています。

神のご品性に関して、イエスの受肉が何を意味するのか、考えてください。私たちには把握できないほど大きい全宇宙を創造された方、その神が「へりくだって」人間の中においでになり、イエスとして生き、十字架で死に、私たちの罪に対する罰をご自分で負ってくださったのです。このことは、なぜ本当に良い知らせなのですか。

参考資料として、『教育』の3「大教師イエス」の「神よりつかわされた教師」の章を読んでください。

「すべての真の教育事業の中心は、神からつかわされた大教師イエスの中にある。1800年前にイエスが自ら築きあげられた働きについてと同様に、今日の教育の働きについて、救い主はこう仰せになっている。『わたしは初めであり、終りであり、また、いきている者である。』『わたしは、アルパでありオメガである』と。

このような大教師イエスと、天来の教育の機会を前にしながら、イエスから離れた教育を求めることは――すなわち、知恵である神を離れて賢くなろうとしたり、真理を拒みながら真実であろうとしたり、光の源であるおかたからはなれて、照明をもとめたり、生命である神をはなれて生存しようとしたり、生ける水の泉であるお方からはなれて、水のたまらないこわれた桶を作ろうとしてみたり――すべてこうしたことは、愚かというよりももっと悪いことである。

見よ、彼は、今もなお招いておいでになる。『だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう。』『わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう』と」(『教育』84ページ)。

「あなたがたの働きのために、最高の準備として私は大教師イエスの言葉と生活と方法をさし示したい。イエスを心に思っていただきたい。ここにあなたがたの真の理想がある。天来の教師イエスのみたまによってわれわれの心と生活が占領されるまで、この理想をみつめ、これを心に思いつづけなければならない。そのときわれわれは『主の栄光を鏡に映すように見つつ、……主と同じ姿に変えられていく』のである。これが生徒に対するわれわれの力の秘訣である。イエスを反映しなさい」(『教育』332ページ)。

話し合いのための質問

❶ **偉大な教師の受肉から学ぶということを真剣に受け止めるクリスチャンの教師、生徒にとって、どのような価値観、行動が重要ですか。**

❷ **クリスチャンの親や教師は、高い基準を持っています。イエスの受肉にあらわされたように、神のご品性を反映するという基準です。この基準を満たしていないとき、私たちはどうすべきでしょうか。**